

全国初・地域おこし協力隊映画
オーディション本読み用脚本

山下大裕

【A】香澄とその彼氏（東京在住）
との電話。別れを切り出される。

○登場人物

・香澄（20代女性）主人公

※主人公の名前は仮名です。今後
変更となる可能性があります。

・悠（20代男性）香澄の彼氏

香澄、スマホで悠と話している。
香澄「でね、カギ閉めてたら怒られるんだよ、おかしいよね。笑える。この辺じゃ玄関閉めてるだけでご近所信用してないみたいに勝手に思われるし……。この間なんか電気消し忘れて寝てたら夜中の二時にチャイム鳴らされて起こされたんだよ……。倒れてるかと思ったって。（笑って）なわけないじゃん。てか普通に寝てる時間だわ」

悠、冷たく返す。

悠の声「まあ田舎だからそんなもんでしょ」

香澄「田舎知らないくせに」

悠の声「だいたい分かるよ。もう切っちゃいい？」

電話を切ろうとする悠。

香澄「ねえ」

悠の声「何？」

香澄「怒ってる……」

悠の声「別に、疲れてるだけ」

香澄「……悠うちの協力隊のSNS
本当は見てるんですよ。別に和真
（かずま）はただの同期だから何

でもないよ」

悠の声「てかあんな写真いらなくね。何のアピール？ 飲み会して給料貰って適当に情報発信とか言ってるしょーもない写真載せて……」

悠（鼻で笑い）「いい仕事だねえ」

香澄「はあ？ 悠にうちの何が分かるの？」

悠の声「ほらうちらとか、その薄っぺらい連帯感が寒いんだって。記念写真撮るの趣味なの？」

香澄「嫌な言い方。こっちだって大変なこといっぱいあるんだよ。何も知らないくせに」

悠の声「あーはいはい、ごめん」

香澄「ねえ思ってもないのに謝るのやめて。言いたいことあるならはっきり言いなよ」

悠の声「（溜息）……やっぱもう俺らダメだね」

香澄「なんでそうなるの？」

悠の声「（鼻で笑い）てか俺好きな人できたわ」

香澄「え？」

悠の声「だからもう終わりにしよう。じゃ……」

電話が切れる。

香澄「ちよっと！」

電話を掛け直す香澄。が、出ない。

香澄「なんでよ……」

全国初・地域おこし協力隊映画
オーディション本読み用脚本

山下大裕

【B】香澄、マルシェの会場として
借りたい公園がある地域の自治
会長宅を訪ね交渉している。

○登場人物

・香澄（20代女性）

※主人公の名前は仮名です。今後
変更となる可能性があります。

・とある自治会長（60代男性）

香澄、自治会長に懇願している。
香澄「ということなので、来月末の
日曜日にこの公園を使わせてい
ただきたいんです」

自治会長「（鹿児島弁で※以後全て）
あのさあ、それに何の意味がある
わけ？」

香澄、快諾を貰える前提で話す。
香澄「意味はこれから生まれます。
まずはやってみないと始まらない
んです」

自治会長「はあ……。言いたくもな
いけどよお、あんたらは地域おこ
し協力隊じゃなくて地域おこし
やってみ隊じゃ。ノウハウも何も
持つとらんだの若造にいじく
りまわされたらこっちもたまら
んわ！ だいたい町おこしに來
たんじゃなくて都会から逃げて
來たんやろ。何があったんや？」
香澄「何もないです。私はただこの
町が好きでこの町のために……」

自治会長、香澄の言葉を遮る。
自治会長「じゃあ言ってみい。（指
折り数えて）飯が美味しい、人が優

しい、自然が豊か、星が綺麗、以
外で、この町の良いところが語れる
んか？」

香澄、答えられない。

香澄「……」

自治会長「ほらな、やっぱり田舎な
らどこでも良いんや。その程度の
覚悟だから薄っぺらいんじゃ」

香澄「……良いとこあります」

自治会長「言ってみい？」

香澄「中学生が自転車道を渡る時
に頭下げることか……」

自治会長「ほらまた勝手に感動的な
エピソードにしようとする。そん
なはこの町じゃ普通。朝起きた
ら顔洗うのと同じぐらい当たり
前なの。だいたいなんでその年で
基本姿勢が上からな訳？ 若く
て東京から来た移住者様は何か
偉いんかねえー？」

香澄「じゃあ地元の自治会長は偉い
んですか？」

自治会長「あんたよりはね」

香澄「……もういいです。帰ります」

香澄、立ち去る。

独り言をこぼす自治会長。

自治会長「また厄介者が来た……」

全国初・地域おこし協力隊映画
オーディション本読み用脚本

山下大裕

【C】協力隊面接で違和感を覚える。

○登場人物

・香澄（20代女性）

※主人公の名前は仮名です。今後
変更となる可能性があります。

・町長（60代男性）

・協力隊担当課課長（50代男女）

・協力隊担当課係長（30代男女）

香澄、面接官を前に話している。

香澄「以上が、本町（ほんちよう）

地域おこし協力隊に志望した動
機です」

町長「（鹿児島弁で※以後全て）君、
彼氏は？」

課長、慌てる。

課長「町長、それセクハラですって」

香澄、怪訝な顔をする。

町長「冗談だよ冗談」

課長「今のは聞き流してくださいね。

決してSMSなどには……」

香澄「SNSですよね」

課長「そうそれです！」

町長「あ、いいところに……」

町長、スマホを取り出す。

町長「君、フェイスブックってわか
る？ 僕のフェイスブックが壊

れちゃってね、これ見てくれない
かな」

香澄「いいですけど」

香澄、町長のスマホを触る。

香澄「パスワード分かります？」

町長「それが出ないんだよ」

香澄「出ないじゃなくて覚えてない

んですか？」

町長「覚えるも何も、僕は仕事で忙
しいんだよ」

香澄「それ理由になってませんけど。
じゃありセットしますね」

焦る町長。

町長「いやいやいや、それは困るよ。

これにはうちの孫の写真がたく
さん入ってるから」

香澄「パスワードのリセットです」

町長「写真は？」

香澄「消えません」

町長、安堵し、

町長「ならよし」

香澄「というか面接もう終わりです
か？」

町長「合格！」

香澄「えっ？」

課長「あ、結果は改めて文書でお送
りしますので、今日は以上になり
ます。くれぐれも先ほどの発言は
お気になさらないよう……」

香澄「私、本気ですからね」

課長「それは十分伝わってます」

町長「がんばってくださいよ」

違和感を覚えつつも安心する

香澄。

全国初・地域おこし協力隊映画
オーディション本読み用脚本

山下大裕

【D】自転車（またはバイク）で佐多岬を目指し日本一周中の旅人を助ける香澄。

◆本読み用脚本はもう少し種類を増やす予定です。（二月十二日中にアップします）

◆鹿児島弁については現時点で話せなくても構いません。その場合は標準語で読んでください。

○登場人物

・香澄（20代女性）

※主人公の名前は仮名です。今後変更となる可能性があります。

・日本一周の旅人（4〜50代男性）

タイヤのパンクで困っている旅人を見つける香澄、声を掛ける。

香澄「どうしました？」

旅人「いやーこれパンクしちゃって……。あーあ、もうちょっとで到着だったのになー。すいません、この辺修理屋あります？」

香澄「あるにはありますけど……今日休みだから月曜まで待たないとお店開かないですよ」

旅人「そっかー」

香澄「佐多岬ですよね。車で送りましょうか」

旅人「いやーありがたいけどさあ、ここまで来たのに最後が車つものもねえ」

香澄「確かに」

笑い合う二人。

く本読みではここから二人のアドリブで一緒に昼食を食べる流れに持って行ってください